

- experiment temperature and wind measurements.
- 2) Mahoney, J.R.: Estimates of vertical energy flux due to propagating gravity wave motions in the mesosphere.
 - 3) Teweles and group: Contributions on diurnal and other oscillatory variations in the atmosphere.
 - 4) Hines, C.O. & C.A. Reddy: Reflection and transmission of gravity waves in regions of wind shear.
 - 5) Maeda, K.: On the transmissivity of pressure waves in the atmosphere.
 - 6) Müller, H.G.: Atmospheric tides in the meteor zone.

理 事 会 だ よ り

第5回(第14期)常任理事会

日 時：昭和41年11月14日 15h—19h30m

所：気象庁第3会議室

出席者：島山, 神山, 北岡, 朝倉, 岸保, 小平, 吉野,
根本, 正野, 桜庭, 須田(順不同)

報 告

- (1) 学会賞, 藤原賞推薦委員は投票の結果承認された。委員長 正野重方, 委員 有住直介 小倉義光 樋口敬二 柳井迪雄
- (2) 山本義一会員を朝日賞受賞候補に推薦する件は, 投票の結果承認された。

議 決

1. 第4回常任理事会議事録および第1回全国理事会議事録は承認された。
2. 昭和42年度総会について
仙台支部の提案の通り, 5月16日, 17日, 18日に東北大松下記念館において行なう。シンポジウムについては仙台支部とさらに協議する。
3. 国際大気電気会議を日本で開く件について
電磁気学会との共催によって1968年5月に1週間の予定で開催する。組織委員会は気象学会の下部組織であることを承認する。募金の受入団体は気象学会とする。気象学会からも前例に従って若干の補助をすることになった。
4. 藤原科学財団より藤原賞受賞の推薦依頼があっ

た。学会賞推薦委員会で検討することになった。

5. D.H. Miller の特別講演会「水収支, 熱収支」について講演会を開き, 謝礼をだす。
6. 気象学会の運営改善について

北岡理事が物理学会の予算案と気象学会の予算案と比較した結果, 事務局が独立するためには, 会費をかなり値上げする必要があることがわかった。そこで, 事務局でやって貰いたい事務的事項がどの位あるのか各理事が担当分野について, 具体的にしらべて次回にもちよる。また, 常任理事会の運営が過去に行きすぎがあったかどうかをしらべることにきまった。又集誌と天気の刊行経費に関し, 夫々のバランスシートを作って見て検討することにした。

気象学会の運営改善についてのとり扱いはつぎのスケジュールにより行なう。

1. 12月の常任理事会で各理事が具体的に分担する。
2. 12~1月に全国理事会と評議委員会を開き検討する。
3. その結果を常任理事会で整理し, 具体案を作る。
4. 気象学会運営改善のシンポジウムを開き, 会員の意見をきく。
5. 3月の全国理事会に成案をはかる。